

ミニ研修「学校で活用できるアプリ研修」

ChatGPT

【概要】

対話型の生成 AI です。入力するだけで、アイデア、文案、助言などが返ってきます。文章作成や要約、翻訳、プログラミング、画像生成など、幅広い活用が可能です。

【研修のポイント】

◆ 授業づくりのアイデアとして活用

- 「6年生に“いのちの大切さ”を伝える導入を考えて」
⇒ 数秒で複数の問い例や導入案が出てくる！
- 「今やっている学習の導入案、問いかけの例などを教えて」
⇒ 回答が不十分であれば、条件を追加して質問するとよい。

◆ お便りの作成

- 「7月号学級通信のタイトルを考えて」 ⇒ 季節感・学年らしさを反映した候補が。

◆ 相談・声掛け場面

- 「6年生の男子同士で喧嘩。〇〇な場合、二人への指導方法や話合いの進め方をアドバイスして」 ⇒ 具体的に質問すると具体的に返ってくる。

◆ 他にも

- 全校アンケート集計の分析…文章量の多い自由記述の傾向整理にも活躍。

◆ 注意点

- 個人情報・機微情報を入力しない。
- AIが出力した情報をそのまま使わない。
- 学校方針との整合性
- 「考えること」の放棄にならないように。

【注意】

- 生成 AI の校内利用についても **申請が必要** だそうです。(詳細資料はキャビネットに格納) 本格的に使用する場合は、ICT 担当までお知らせください。

研修後、職員室で「生成 AI の利用で、子どもたちはどんどん考えなくなるのでは？」と雑談が始まりました。みなさんは、どう思いますか？

研修を聞いて、生成 AI を効果的に使うにも「考える力」が必要だと思いました。例えば…
「出てきた答えから自分に合った答えを取捨選択する力」「自分の目的に合わせて条件を追加する力」「得た答えを現実に落とし込む力(柔軟に形を変える力)」などなど。

学級で一斉に生成 AI を使っても、子どもによって使い方や生かし方は違ってくるはずです。
生成 AI の活用が目的ではなく手段となるように、どんな活用の姿を期待するか、教師はイメージしておくことが必要となりそうです。



ミライシードよりオクリンクプラス・テスト

【概要】

「まなびポケット」から利用できるアプリです。他にもオクリンクやムーブノートなどの機能もありますが、これらはいずれ使用できなくなります。

【研修のポイント】

- ◆ オクリンクプラスでは、振り返り機能が充実しています。シートを工夫したり組み合わせたりすることで、毎時間振り返ることが可能です。授業シートはまだまだこれからのようです。
- ◆ オクリンクプラスでは、子どものシートを印刷したり、ライブモニタリングができたりするようになりました。
- ◆ テストは現在4年生以上で利用可能。選択問題が多いですが、記述式の問題もあり、自動採点してくれます。プレテストとしての利用が効果的だと思います。

ミライシードの「テスト」は、週末のまなびポケットの宿題配信の代わりとしても使えそうです。

ちなみに、東京大学から「紙の手帳の脳科学的効用について～使用するメディアによって記憶力や脳活動に差～」という研究成果が発表されています。発表のポイントとしては、「スケジュールなどを書き留める際に、スマートフォンなどの電子機器と比較して、紙の手帳を使った方が、記憶の想起に対する脳活動が定量的に高くなること」「教育やビジネスにおいて電子機器が多用される中、記憶力や創造性につながる紙媒体の重要性が明らかに」だそうです。五感を通す紙媒体の方が、より記憶に残りやすいと考えられています。本校の学校教育目標は不易かつ最先端だと思いました。

ただ、ICT活用のメリットも当然ありますので、「子どもたちにとって」もしくは「教師にとって」本当に効果的か考えながら利用していきましょう。



UD トーク

【概要】

話す言葉を認識し、文字起こしをするアプリです。入力した文章を読み上げることもできるので、聴覚障害や視覚障害のある方の支援に使われることが多いです。

【研修のポイント】

- ◆ 市内の中学校の難聴学級では、授業支援に使っています。難聴の子どもは、授業を聞いて話の大筋は理解できても、助詞の使い方などの文法や初めて聞く言葉は聞き取りにくいので、文字化されたものを見ることでよりよく理解できます。
- ◆ 学年対応の漢字表示やひらがな表示に設定できます。
- ◆ 外国語の翻訳もでき、英語に翻訳して音声で伝えることもできます。
- ◆ 正しく音声認識させるためには、ゆっくりはっきりと話す必要があります。発音や発声の訓練に活用できるかもしれません。
- ◆ ZOOM のオンライン会議でも利用可能。会議の記録として。
- ◆ 校内のクロームブックならだれでもアプリを使えます。学校で「アプリ導入プログラム」を申し込み、アカウントを取得。無料で利用が可能です。本校では市教委へ申請済み。職員共有フォルダから【保存】UD トーク導入プログラムアカウントのショートカットを開いてください。

文字起こし機能を、障害のある方だけでなく、「英語の翻訳として」「発音や発声の訓練として」「会議の記録として」と、様々な利用が考えられそうです。道具は使い方次第ですね！

